

コロナ後の観光客受け入れのエントランスゾーン機能も 『キーノ和歌山』開業

和歌山市内には、ターミナル駅が2つある。JR西日本の和歌山駅と南海電鉄の和歌山市駅だ。和歌山駅には、ファッション関連や飲食店がテナントとして入居する商業施設「和歌山ミオ」があり「近鉄百貨店和歌山店」とも連絡している。

もう一方の和歌山市駅。南海本線沿線で生まれ育った筆者には、幼い頃から慣れ親しんだ駅だ。毎年、春になれば、小学生だった私は両親や姉と電車に乗り、和歌山市駅から和歌山城へと花見に出掛けた。また、夏には同駅からバスやタクシーで海水浴にも。子供心にも和歌山市駅と駅前の商店街が多くの人々でにぎわっていた記憶がある。しかし、2014年8月末にキーテナントの「和歌山タカシマヤ」が閉店。その跡に入居したスーパーなども、17年3月にビルの建て替えのため閉店した。駅前の商店街もシャッターを閉めた店が目立つ。ここ数年は、仕事で和歌山市駅で降り立ってもランチを食べる店を探すのに苦労したほどだ。

そんな和歌山市駅の光景をガラッと変えたのが、今年6月にグランドオープンした『キーノ和歌山』だ。南海電鉄と和歌山市、和歌山県が共同で進める「和歌山市駅周辺の活性化」の一環として、南海電鉄が開発した施設で、駅ビルの商業棟とホテル棟の1階から3階部分が商業ゾーンとなり、全国初出店3店舗、和歌山県内初出店5店舗を含む、計29店舗が入居する。産直の和歌山県産食材や生鮮食品、お弁当などを買って求めたり、ラーメン店やカフェ、レストランなどで飲食を楽しむ人々でにぎわいを見せる。「美と健康」をテーマに掲げる3階フロアには、クリニックやスポーツジムなども。「和歌山市民図書館」も同時オープンし、市民の豊かな生活を支える。7月には「カンデオホテルズ南海和歌山」が開業。120室を有する和歌山エリア唯一の「4つ星ホテル」が誕生した。商業、宿泊、文化、生活関連などさまざまな施設を有する『キーノ和歌山』。今後、増加が見込まれる国内外からの観光客を迎え入れるエントランスゾーンとしての機能を発揮し、コロナ後の県全体の観光振興にも好影響を与えそうだ。

産経新聞社 メディア営業局企画委員 根来隆昭



南海・和歌山市駅ビルを中心にさまざまな施設が入居



和歌山市民図書館が同時オープン